

遊び仲間が運動能力とリーダーシップに及ぼす影響

富金原遥 (鳴門教育大学・中学校教育専攻)

1. 緒言

現在、少子高齢社会と子どもの運動能力の低下が問題となっている。人口と子どもの減少とともに、一人っ子の割合は、1977年に11%、2010年16%、2015年では25%と増加している。子どもの運動能力低下の原因は、学力重視によるスポーツ軽視の傾向が進んだこと、遊び場の減少、ゲームなど遊びの変化などが関係している。また以前は言葉や行動でメンバーを引っ張る者をリーダーシップがあるとされたが、現代ではメンバーに寄り添い、ともに歩くリーダー、上との懸け橋になることが良いリーダーと呼ばれている。

本研究では、兄弟姉妹の数と出生(長子・中間子・末っ子)においてスポーツに対する好感度・リーダーシップ・コミュニケーション能力・協調性との関係を明らかにすることを目的とした。

2. 研究方法

研究① 質問指法による遊び仲間と運動能力・リーダーシップを調査

- 1) 対象：N 大学学生 172 名(男子 89 人・女子 84 人・他 1 人、平均年齢 19.3 歳、s.d.1.50)
- 2) 方法：授業終わりに質問紙を配布、即時回収し、回収率は 100% だった。

研究② ActionAction Socialization Experience (以下 ASE) によるリーダーシップの調査

- 1) 対象：N 大学保健体育科コース 1 年生 9 名(男子 4 人・女子 5 人、平均年齢 18.2 歳、S.D.0.57)
- 3) 方法：ASE のゲーム 3 種類「日本列島」「ブラインドスクウェア」「人間知恵の輪」を行い、活動中の発言回数を 3 名の記録員が記録用紙に記入するとともに、IC レコーダー(松下電器産業社製)とビデオカメラ(CASIO 社製)により発言内容を記録した。活動後に対象者にリーダーシップを發揮していたと思う 2 名選ばせた。

3. 結果と考察

以下の結果は χ^2 独立性の検定の結果、有意差が示されたものである。

研究① 質問紙法の結果

1) 体育科と兄弟の有無

対象軍における兄弟有は 85% だった。体育科では 97% とほぼ兄弟を有していた。

2) 兄弟数と運動有能感

下図の通り、兄弟数が多いと自己評価による運動能力と考えているものも多いことがわかった。これは兄弟が多いと日常的に異年齢と関わりがあり、運動遊などの中で競争が日常的に行われているためと推測された。

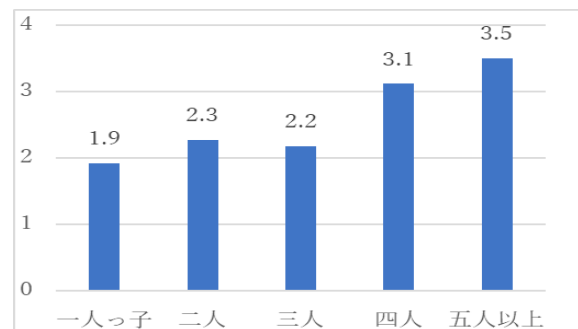


図 兄弟数と運動能力

2) 兄弟関係とスポーツ好感度の関係

スポーツの好感度は、中間子、長子、末子、一人っ子順で高かった。運動能力の有能感も同じであった。中間子は日ごろから上下の兄弟と競い合うことが多く、スポーツ好きになり、運動能力も高いと感じ、一人っ子は、他者と競うことをあまり好まないのではないかと考えられた。

3) 遊び仲間との関係

遊び仲間と自発的リーダーシップ(2015 年、小原)の合計得点は関係があった。これは、異年齢と遊ぶことが多いと発達段階に差がある中、みんなで楽しく遊ぶための立ち回りや心配りを身につけると考えられ、自発的リーダーシップが高くなると期待される。

研究② ASE による実験・調査

実験から、発言回数が多いと他者評価としてリーダーシップが高いと感じられていることが分かった。